

2011年(平成23年)11月2日(水曜日)

北 國 新 聞

阿部様、中山

クロマルハナハチを飼育する職員  
—今年1月、能登町の飼育施設

第3頁



# 雇用創出期待したが...

# 授粉ハチ飼育 能登町が休止

能登町が全額出資する同町おれあい公社が2009年から取り組む授粉用ハチ「クロマルハナハチ」の飼育事業が、今年度で休止される見通しとなった。商品化率が悪く採算が合わないため、町議会決算特別委員会は1日までに、12月定例会で事業を休止が廃止にすべきと報告する方針を決定。町は事業を休止する方向で、新たな雇用創出につながることを期待された事業は開始3年で幕を下ろす。

## 決算特別委が報告へ

## 赤字2千万円「継続は不適切」

町によると、同公社では住入れた女王蜂の数に対して出荷できるコロニルの割合を示す商品化率は3.4割にとどまる。女王蜂が死んだり産卵しなかったりするため、採算に見合っていない。商品化率の割合を大幅に下回っている。町は今年度当初予算でクロマルハナハチ飼育事業に2775万円を計上しており、現時点での今年度の赤字額は2千万円前後をいっ。



九谷焼のロックカッパを展示する北陸先端科技大の職員

24日にオープン  
兼ねたオープンキャンパスを開催する。施設見学や体験講座、研究室訪問などのメニューを用意している。研究科セミナーで

能登町は06年に閉校となった旧三波小学校を飼育施設として改修し、町おれあい公社が09年に飼育事業を開始。仕入れた女王蜂に約50匹を産ませ、繁殖用のために作った女王蜂1匹と働き蜂50匹で構成する群れをコロニルを全国の農家に出荷してきた。町によると、同公社では住入れた女王蜂の数に対して出荷できるコロニルの割合を示す商品化率は3.4割にとどまる。女王蜂が死んだり産卵しなかったりするため、採算に見合っていない。商品化率の割合を大幅に下回っている。町は今年度当初予算でクロマルハナハチ飼育事業に2775万円を計上しており、現時点での今年度の赤字額は2千万円前後をいっ。

## 東京の見本市に出展

北陸先端科技大大学院大と連携し、現代の生活に伝統を  
加賀縫のリンダ  
九谷焼ロックカ  
ルピングに共同出展する。おえて絵付け、I-RHしない茶地を残した白発表。基調の九谷焼ロックカされるアップ、加賀縫のリング、茶地に新たな発想のもの、そととつくりを披露する。ほかに、

50、60代の女性が3年前から勉強会を開く。絵画サークル、塩谷佑子代表、同町鶴ヶ丘4丁目IIが水彩の点描で大地と木のエネルギーを表現した。いのちをはじめ、会員が風景や静物などの作品を出展した。13日まで。